

•Japanese Utility Model Application No. 52-171104 (Japanese
Unexamined Utility Model Publication No. 54-097212)

•Reference number

- 1... seat
- 2... pad member
- 3... surface skin member
- 4... ventilation hole
- 5... ventilation passage
- 6... lining member

⑫公開実用新案公報 (U)

昭54—97212

⑪Int. Cl.²

A 47 C 7/18

A 47 C 7/74

A 47 C 27/14

識別記号

⑫日本分類

126 B 010

126 B 43

126 C 16

庁内整理番号

6652—3B

6652—3B

6746—3B

⑬公開

昭和54年(1979)7月9日

審査請求 有

(全 2 頁)

⑭自動車等の座席

⑮実 願 昭52—171104

⑯出 願 昭52(1977)12月21日

⑰考 案 者 片山安彦

横浜市港北区日吉二丁目16番33号

⑱考 案 者 谷内隆

横浜市神奈川区松見町3丁目54番地

⑲出 願 人 池田物産株式会社

横浜市保土ヶ谷区東川島町1番地の3

⑳代 理 人 弁理士 井上清子 外1名

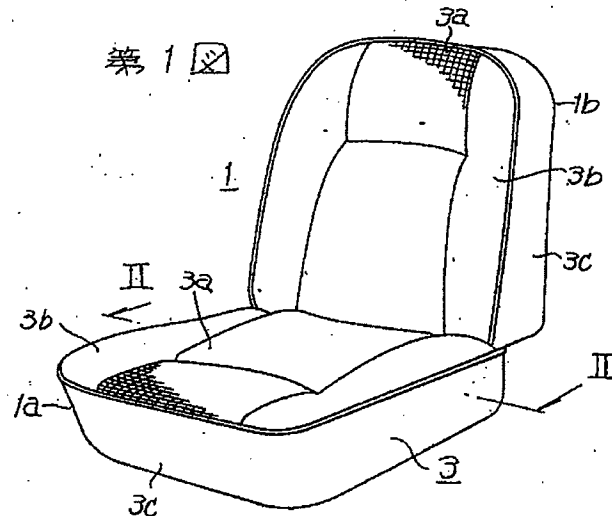
㉑実用新案登録請求の範囲

発泡体を主材とするパッド材の表面を表皮膜で被覆した座席において、前記表装皮膜はその鏡部を通気性皮膜で形成し、前記パッド材には表装皮膜の鏡部の下側に該当する部分に位置し該パッド材を上下に貫通する通気孔を設けると共に前記通気性皮膜と対接するパッド材の面に前記通気孔を相互に連通する通気溝を設けた自動車等の座席。

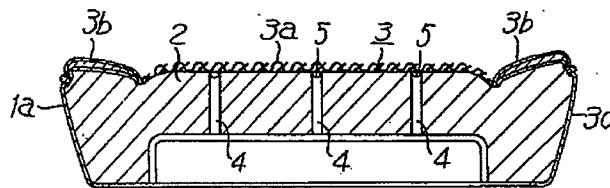
図面の簡単な説明

図面は本考の実施例を示し、第1図は斜面図、第2図は第1図のⅠ—Ⅰ線拡大断面図、第3図はパッド材の平面図、第4図は変形例を示すパッド材の平面図、第5図は第4図のV—V線拡大断面図である。

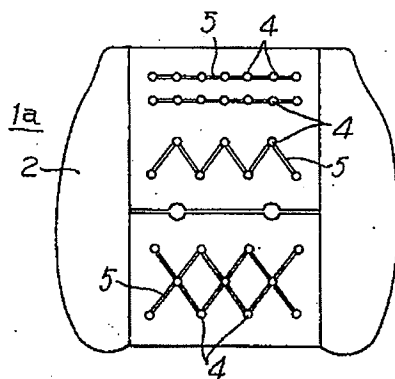
1は座席、1aは座部、1bは背もたれ部、2はパッド材、3は表装皮膜、3aは鏡部、3bは袖部、3cは裾部、4は通気孔、5は通気溝、6は裏当材である。



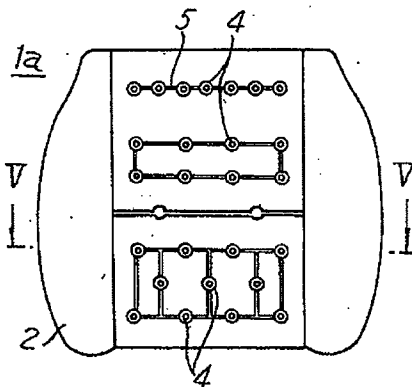
第2図



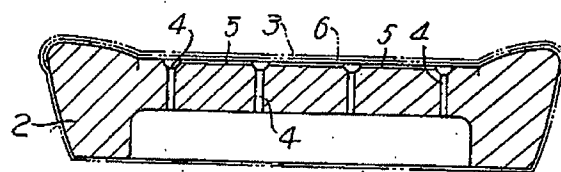
第3図



第4図



第5図





(3,000円)

実用新案登録願

(1)号

昭和52年/2月2/日

特許庁長官 熊谷善二殿

1. 考案の名称

自動車等の座席

2. 考案者

住所 神奈川県横浜市港北区日吉二丁目/6番33号
氏名 カタヤマ ヤスヒコ 片山 安彦
(外/名)

3. 実用新案登録出願人

住所 神奈川県横浜市保土ヶ谷区東川島町/番地の3
氏名 池田物産株式会社
代表者 池田 寿

4. 代理人

住所 東京都中央区銀座七丁目14番3号
松慶ビルディング

4235 氏名 辨理士 井上清子

(外/名)

電話(541)1776(代)4572

5. 添付書類の目録

| | |
|-------------|----|
| (1) 明細書 | 1通 |
| (2) 図面 | 1通 |
| (3) 願書副本 | 1通 |
| (4) 委任状 | 1通 |
| (5) 出願審査請求書 | 1通 |



方式
審査

52 171104 54-97212

明 細 書

1、考案の名称 自動車等の座席

2、実用新案登録請求の範囲

発泡体を主材とするパッド材の表面を表装皮膜で被覆した座席において、前記表装皮膜はその境部を通気性皮膜で形成し、前記パッド材には表装皮膜の境部の下側に該当する部分に位置し該パッド材を上下に貫通する通気孔を設けると共に前記通気性皮膜と対接するパッド材の面に前記通気孔を相互に連通する通気溝を設けた自動車等の座席。

3、考案の詳細な説明

本案は座席の座部、背もたれ部を通気性にした自動車等の座席に関するものである。非通気性表装皮膜でパッド材を被覆した座席は通気性が悪い



ため使用中背中や殿部がむれ、使用感を害するものである。これを防止するため、表装皮膜とパッド材を貫通する通気孔を設けたものがあるが、通気孔の開口部分の通気性はよいが、開口以外の部分では通気性が悪い。これを改良するため通気孔間の間隔を狭くして設ける方法が考えられるが、貫通孔を近接して設けるとパッド材の腰が弱くなり、底突きが起り易く、安定で長時間着座した場合使用感のよい座席が得難くなる。

本案は座席のパッド材を被覆する表装皮膜の鏡部を通気性皮膜に形成すると共にパッド材に上下方向に貫通する通気孔を設け、該通気孔をその上端部で相互に連通する通気溝を設けたもので、鏡面の通気性に局部的な偏在がなく、長時間着座してもむれず、パッド材も適度に腰が強く良好なク

ツシヨン性を有するものである。

以下本案を実施例について説明すると、座席(1)の座部(1a)又は(及び)背もたれ部(1b)において、ポリウレタンフォーム等のパッド材(2)が表装皮膜(3)で被覆されている。前記表装皮膜の腕部(3a)は織布その他の通気性皮膜で形成され、袖部(3b)、裾部(3c)はポリ塩化ビニルシート等の非通気性皮膜で形成されている。袖部、裾部も必要なら通気性皮膜で形成することができるほか、上記袖部、裾部はこの部分に該当するパッド材(2)の表面をスキン層に形成して、この部分の表装皮膜を省くこともできる。上記通気性皮膜で形成した表装皮膜の下側に当る部分のパッド材には、これを上下に貫通する通気孔(4)が適宜数設けられていて、この通気孔の上縁部は通気溝(5)で連結され、通気孔の



空気が相互に連通できるようになつてゐる。通気孔(4)の上縁部(上部開放端)は、必要に応じて漏斗状等に拡大して形成でき、前記通気溝と相俟つて通気孔の空気の流通が一層良好になる(第5～6図)。上記通気孔の大きさ及び通気孔間の間隙は例えばポリウレタンフォーム等の場合、初圧の硬さをやわらげると共に腰が弱くなりすぎて底突きを起さない程度のクッション性が維持できるようにすることが必要であり、座席に対する荷重のかかり具合によつて通気孔の分布が適宜に選択形成される。又上記表装皮膜の裏面には発泡体等の裏当材を裏装する場合があるが、通気性の特にすぐれた裏当材を使用すれば、前記通気溝による通気を一層助長できる。図面では径約8mmの通気孔の上縁部を約20～30mmに拡大すると共に裏当



材(6)にB S スコット(商品名)を裏装したものが示されている。

上述の如く形成されているので、鏡部全面にわたり空気の流通が良好に行われ空気のよどみによる局部的なむれがなく常に快適な着座使用ができ、しかも、着座した場合初圧の硬さがなく、走行中道路の凹凸による大なるバウンドにあつても底突きがなく安定且つ座心地のよい走行ができるものである。

4、図面の簡単な説明

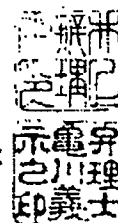
図面は本案の実施例を示し、第1図は斜断面図、第2図は第1図のⅡ-Ⅱ線拡大断面図、第3図はパッド材の平面図、第4図は変形例を示すパッド材の平面図、第5図は第4図のV-V線拡大断面図である。

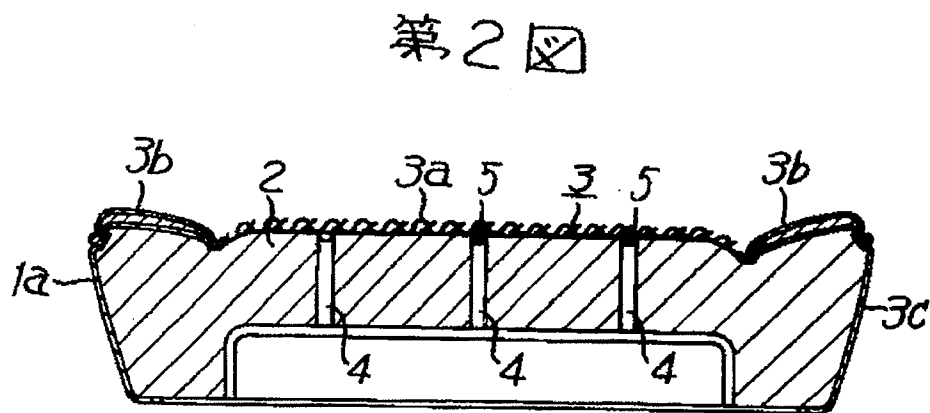
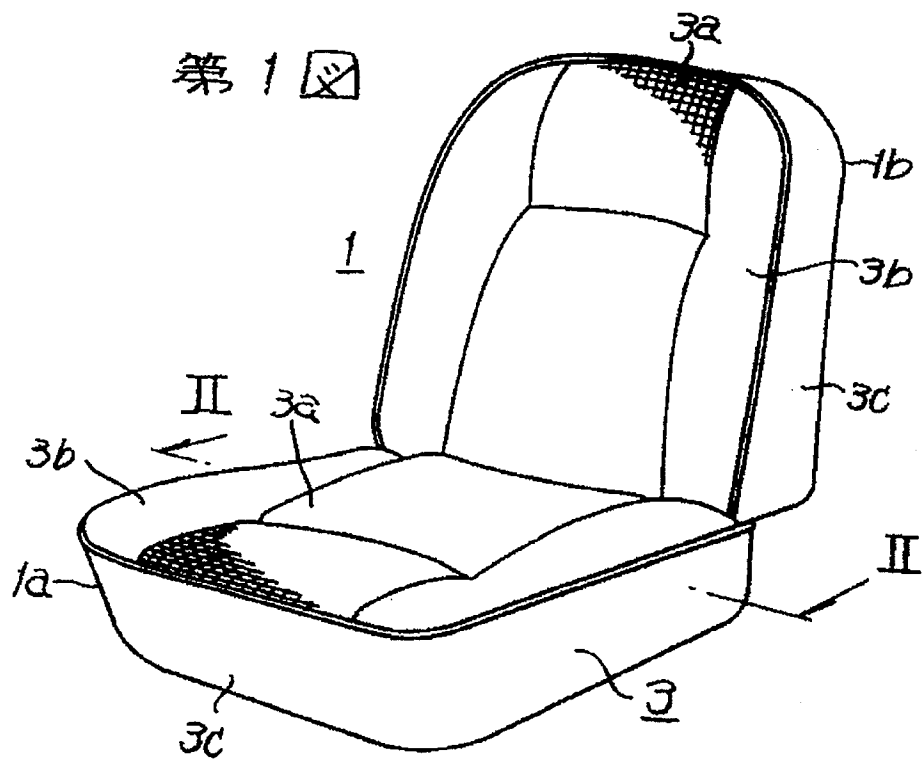
(1)は座席、(1a)は座部、(1b)は背もたれ部、
(2)はパッド材、(3)は表装皮膜、(3a)は鏡部、(3b)
は袖部、(3c)は裾部、(4)は通気孔、(5)は通気溝、
(6)は裏当材である。

実用新案登録出願人 池田物産株式会社

代理人 辨理士 井 上 清 子

代理人 辨理士 亀 川 義 示





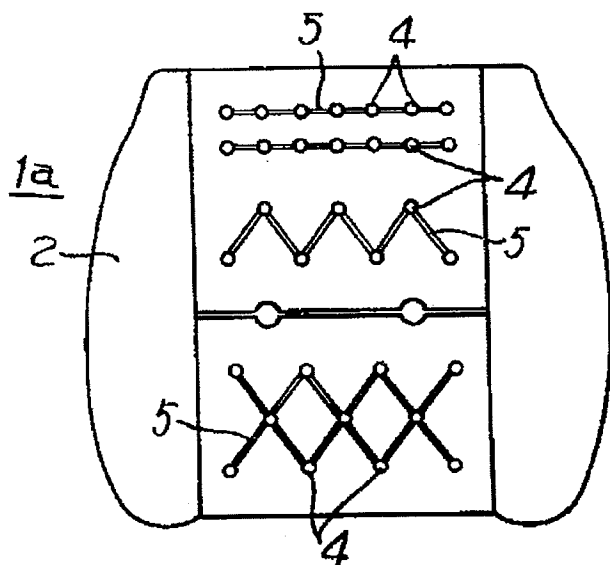
実用新案登録出願人 池田物産株式会社

代理人弁理士 井上 清

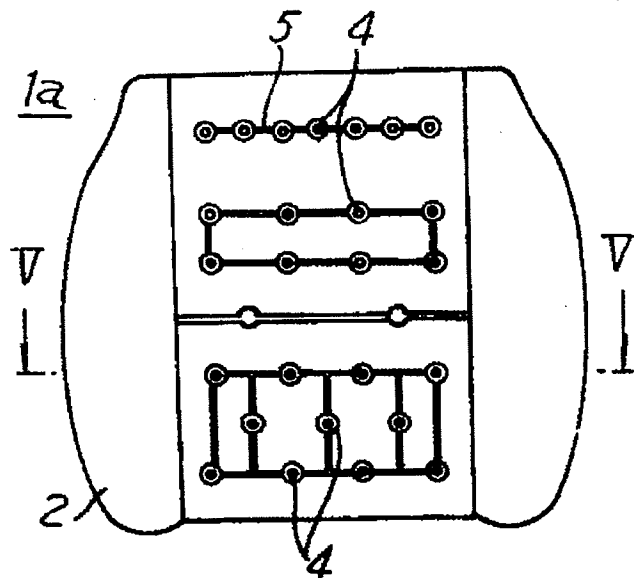
97212 1/2



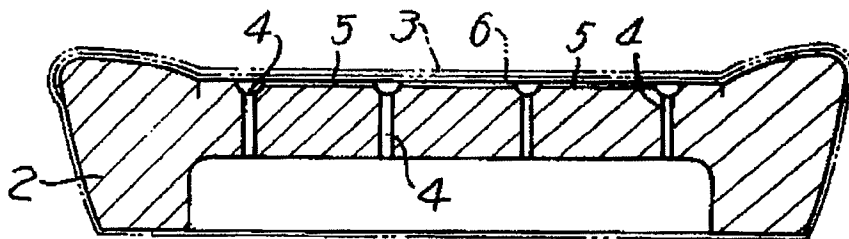
第3図



第4図



第5図



実用新案登録出願人 池田物産株式会社

代理人弁理士 井上 清



212 $\frac{2}{2}$

6. 前記以外の考案者または代理人

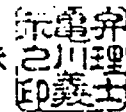
(1) 考案者

住所 ^{ヨコハマシ}神奈川県 ^{カナガワク}横浜市 ^{マツミチヨウ}神奈川区 松見町 3丁目543番地
氏名 ^{ヤチ}谷内 ^{タカシ}隆

(2) 代理人

住所 東京都中央区銀座七丁目 / 4番3号
松慶ビルディング

8154 氏名 辨理士 亀 川 義 示



54-97212